

令和 7 年度 9 月期 北海道大学

博士課程学位記授与式 総長挨拶

(日本語訳)

本日、博士の学位を授与された 120 名の皆さん、おめでとうございます。大学院という最高水準の教育・研究の課程を無事、終了されたことに対して、北海道大学を代表して、心からお祝い申し上げます。

また、慣れない異国の環境の中で、言葉で言い尽くせない努力を重ね、本学を修了されます 74 名の留学生の皆さんに対しては、深い敬意を表し、更に大きな祝意をお伝えしたいと思います。

さらに、また、皆さんを支えてこられたご家族、関係者の皆さまに対しても、心よりお祝いを申し上げます。この間、本学へのご支援をいただいた方々には、この場を借りて、深く御礼申し上げます。

世界では、毎日、驚くような変化が起こっています。その動きは、一見すると、とても複雑で、秩序のないものに見えます。しかし、私は、その全ての変化には共通したものを見ることができます。それは、既存の民主主義を脅かし、場合によっては、その一部を否定するという共通した動きです。これらの変化は、世界のあらゆる地域と国で顕在化しています。日本でも、SNS などのメディアを通して私たちが

揺さぶっています。

そうした大きなうねりは、本来、複雑で多様である私たちの世界を単純なイデオロギーで支配しようとしているように思えます。今、世界を覆っている巨大な力は、多様性と複雑性を強みとしてきた民主主義やグローバリゼーションの弱点を巧みに顕在化し、それに代わる別の夢と可能性を示して、世界を別の方向に向けようとしています。

多様性を重視する価値観にも脅威が及んでいます。多様性は、生命や生態系にとって、必須、なくてはならない最強の「生存戦略」です。言い換えれば、地球、生命体、国、組織など、あらゆるシステムが、健全に生き残るためには、多様性を持った生態系、エコシステムが必要不可欠であり、その結果、多様性はさらに強化されます。すなわち、生存戦略と多様性は、それぞれが原因であり結果であり、不可分のものです。多様性のある生態系が、豊かさを生み出し、人の Well-being をもたらし、勝ち残るのだと確信します。言い換えれば、私たちは、生存のために、この多様性を守り抜く必要があります。

生成系 AI が日常に定着しました。実用的な AI が存在しなかった 20 世紀までと AI が爆発的に実用化した今世紀 21 世紀との間には、

人類史的な分界点があります。数百万年続いてきた人類の歴史における人間の知性のあり方に対して大きな衝撃が与えられました。

このAIの登場と今述べたように世界を席卷しつつあるイデオロギーの組み合わせは、大きなシナジー効果を持っており、世界を大きく変容させる危険を有しています。

AIの基盤となる先端半導体は、今や、ナノのレベルを超えて、微小なオングストロームの微細構造となり、エネルギー消費の課題も克服すれば、私たちの世界がUbiquitousにAIで埋め尽くされることになるのは時間の問題です。その世界で、私たち・人間が主人公でなくなり、価値の主体が、人から離れることは、あってはならないことです。しかし、傍観していれば、どんなことも起こりえます。

我が国では、半導体の復活を国策として、間もなく、北海道で世界最先端の半導体のFabが稼働し、2nanometerの先端半導体の生産が始まります。この事業に北海道大学も深く関わっています。このことを考えると、AIの基盤となる先端半導体を牽引する私たち、北海道大学と皆様を含めた関係者は、AIと民主主義の在り方に関して、取り分け、大きな責任があることは間違いありません。

世界は大きな変化、Changeの時期にあり、従来の成功体験や

establish された人々の考えでは突破できない状況になりつつあることも事実です。決して、現状にとどまることがあってはなりませんし、とどまることのリスクやその失敗の大きさは、この 30 年の日本の停滞が証明しています。皆さんには、この大きな変化の時代を大きな成功のチャンスと捉え、変わることに勇気を持って頂きたいと思っています。

本日の学位記授与式の最後に、本学の礎を築いた、札幌農学校初代教頭である W.S.クラーク博士の人生について、改めて、思いを寄せたいと思います。

彼は、「Boys, be ambitious, like this old man!」という、実にシンプルで、心に突き刺さるメッセージを学生たちに残して、札幌を去ります。彼の人生は、生涯を通じて、チャレンジそのものでした。クラーク先生の生涯は、学術や教育に留まらず、世界・社会を変えようとし続けたものであり、彼自身の言葉通り ambition に満ちた果敢な人生でした。

そして、クラーク先生と彼に同行した教師たちが目指したグローバル人材育成の結晶が、新渡戸稲造であり、内村鑑三であり、宮部金吾です。そして、こうした先人の DNA を受け継ぐ後継者が、ここに

いる皆さん一人一人です。

皆さんは、私たちの最高のロールモデルであるクラーク先生の「Be ambitious」の精神を胸に、学びを続け、挑戦を続け、勇気をもって、この困難な時代を堂々と歩んでください。

修了生の皆さんのご健康とご活躍を心から祈念して、私の結びの言葉といたします。